

反核医師ジャーナル

第58号 発行：核戦争に反対する医師の会・愛知

2008年10月15日
vol.27 No.2

(名古屋市昭和区妙見町19-2)
愛知県保険医会館気付
TEL052-832-1345

平和へのアクション101+2 戦争やテロのない世界の実現に向けて



「戦争なんて、なくなるしない」
そう思い込んでいませんか？

あなたが変われば家族が変わる。友人が変わる。知り合いが変わる。
そして、国が変わり、世界が動く。

メアリーウィン・アシュフォードさんはカナダの内科医師であり教育者。

I PPNW (International Physicians for the Prevention of Nuclear War) の会長として米国、ロシア、インド、パキスタンおよび北朝鮮等の政府指導者と会見し、和平と核兵器廃絶を訴えるなど多方面の活動を行ってきた。それらの経験をもとに『No Blood Shed』を執筆。このたび、核戦争に反対する医師の会が同書の日本語版を『平和へのアクション101+2』として出版した。

**世界各国の創造的な活動から学ぶ
誰もできる平和の実践法101+2例
「平和へのアクション101+2」**

著者：メアリーウィン・アシュフォード

(B5版変型280頁)

2,600円で好評発売中！

※ご注文は「核戦争に反対する医師の会・愛知」まで

反核医師の会 26周年記念講演会

戦争する国アメリカで
暮らす人々を取材して

ードキュメンタリー映画の制作現場から―



130人がつめかけて真剣に話を聞く（保険医協会伏見会議室）

核戦争に反対する医師の会・愛知は五月三十一日（土）、保険医協会伏見会議室で結成二十六年記念講演会『戦争する国アメリカで暮らす人々を取材して』を開催した。映画監督でドキュメンタリー映画『アメリカばん

ざい（Crazy as usual）を製作中の藤本幸久氏と、共同製作者でジャーナリストの影山あさ子氏を招いて行ったもの。

講演会には医師のほか市民も含めて百三十人が参加した。

藤本監督は、自国が戦場になるのを避けながら、ベトナム戦争以来イラクやアフガニスタンなど他国に出張って戦争してきたアメリカの国内では、戦場にされている国とはまた違った頭われ方で人々を蝕む社会病理現象が深く広く進行している実態を、二〇〇六年十月から今年四月まで延べ七回、二百日間のアメリカ取材を重ねて追った。

影山氏は、「岐路に立っている日本が、憲法を変えてアメリカと同じような国になってしまったら、どうなるかを伝えたかった」と話



講演する藤本監督と影山あさ子氏

し、藤本氏も「NHKをはじめメディアがジャーナリズムの社会的役割を果たしていない現状の中で、八月から上映予定のこの映画をぜひ見て考えてほしい」と訴えた。そして「戦争する国」アメリカを、九条を改悪して「戦争できる国」をめざそうとしている日本の近未来の姿としないうようにしようと呼びかけた。

初のブートキャンプ

取材に成功

同氏らは、今年二月には、取材許可が得られにくい米海兵隊のブートキャンプ（初年兵教育キャンプ）の取材を申請して初めて認められ撮影に成功した。つい昨日まで普通の高校生だった若者たちが、到着するやいな

や、怒鳴り散らされ頭を丸刈りにされて恐怖の訓練に突入、身も心も個性を削ぎ落とされて海兵隊の「兵士」に仕立てられて

海兵隊のブートキャンプ
じつは兵士は造られる

私たちは、今回の取材の最終盤にサウス・カロライナにある海兵隊のブートキャンプ、パリス・アイランドの取材が初めて認められた。海兵隊には二つのブートキャンプがあり、ここは百年近い歴史を持つている。ここで、十二週間行われる教育課程を三回にわたって取材することができた。

キャンプでは、毎週五百―七百人の若者が入隊し十二週間の訓練を経て、毎週金曜日の卒業式で海兵隊員になって出て行く。年に二万人が海兵隊員になる。

疲れさせ、緊張と思考能力
停止から始まる人格改造

私たちの撮影は、若者たちがバスやワゴン車に乗せられて深夜に到着するところから始まった。深夜に到着するのは、新兵

行く様子が映し出されると、参加者たちは息をのんで見入った。二人が語った講演の主な内容は次の通り。

たちを疲れさせて兵士への精神改造を容易にするためだ。目を閉じると命令されてどこに着いたかも判らず、到着後は四十八時間眠ることが許されない。

到着するや、考える暇もなく教官から怒鳴られ整列させられて最初の訓示。「話しかけられるまで話すな」「I, meは禁止！

自分のことはThis recruitと言え」「返事は！」「Yes Sir!」「声が小さい、叫べ！」「Yes Sir!」という具合だ。

着いたらすぐに家に電話をさせる。ただし、話す内容は決められている。「こちらは新兵〇〇です。無事パリス・アイランドに到着しました。食べ物や荷物は送らないでください。新しい住所は七―九日の間に手紙で知らせます。協力に感謝します。さようなら」これだけ。

出たのが親であつてもこれ以外は話すことはできない。教官から怒鳴りまくられ、深夜に強

制されてかける電話。声が小さかったり、家族が出なければ何回でもかける。恐怖して絶叫する電話の音が基地内に響く。

そして、その夜のうちに男子はみんな順番にバリカンで丸坊主にされる。到着したときには特徴が見分けられた子が、もう誰が誰だか判らなくなる。

こうして思考をマヒさせ、ひたすら「Yes Sir!」と叫んで命令に従いながら、厳しい体力勝負の訓練を繰り返す。

十二週間の教育課程が終わる頃にはいつ戦地に送られても「殺される前に敵を殺す」ことは当たり前前と叩き込まれた「一人前」の兵士が造られるのだ。

**若者を兵士にさせない！
おばあさんたちの座り込み**

軍のリクルーターたちは、全国各地に網を広げ小さな町にも出先の事務所を構えて、若者たちを海兵隊や軍に取り込もうと触手を伸ばしている。

この事務所の入り口に大きく「CLOSED」と書いた張り紙を貼って座り込み、若者に「甘い言葉に惑わされないで」と呼びかけるおばあさんたちがいる。

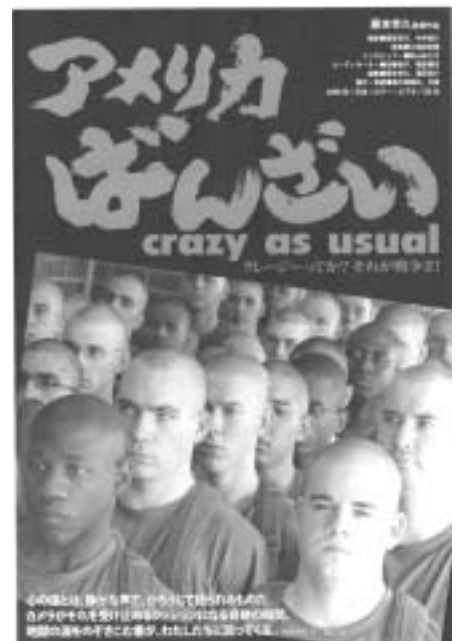
警察に逮捕されても逮捕されても、歌を歌いながら「また来るからね」と頑張るおばあさんたちだ。

若者たちの選択 ——格差社会の底辺で——

アメリカを取材して実感することは、空襲などの経験がなく常に他国を戦場としてきたアメリカでは、戦場を知っているのは、兵士たちだけだということ。

中間選挙でのブッシュの敗北、イラク増派に対して議会で反対の決議が上がった。今日のアメリカの変化を生み出す契機になっているのは、現役兵士や帰還兵、その家族たちが上げている命かけの「NO」の声だ。

イラクに派遣されながら、「良心的兵役拒否」を主張し、武器をいっさい手にしなかった陸軍兵士、アグネスティン。日本への駐留がきっかけとなって、日本人の妻の後押でイラク派遣を拒否した海軍兵士のパブロ。イラクで上官からレイプされ続け、二度目の派遣を拒否したスーザン。米兵三人の殺害に対する報復で百人以上のイラク人を殺



『アメリカ ばんざい』の劇場上映は7月から8月に既に終了。これから各地で自主上映が始まる

害した後、再度イラクへ戻るとを拒否したダレル。

国防省の発表でも、「許可なく」軍務を離れている兵士は八千人以上にのぼる。

戦争を受け入れるにしろ、拒否するにしろ、迫られるのは苦渋の選択

違法な戦争に参加し人殺しに加担して、軍人生活を全うするか、あるいは「NO」という意思表示をするのか。いずれにしても苦渋の選択を迫られる。

戦場で人を殺してしまった青年は、生きて帰れたとしても、PTSDに苦しみ、元の自分には戻れない。一方、イラク派遣や人を殺すことを拒否すれば、軍事裁判にかけられる。刑期を

終え、軍隊は辞められても、その後の人生は決して楽なものではない。「祖国の裏切り者」というレッテルが付いて回る。「祖国のために尽くしたい」「大学へ進学したい」「家族を養うため」

：軍人になる理由を聞けば、素朴な愛国心の他、今の生活を変えたいという願いがその主な動機だということがよくわかる。

学歴社会のアメリカでは、大卒卒業資格は必須だ。しかし、学費が高い。「二生時給五ドルで暮らすのか、それ以上を望むのか。軍人になれば大学に行ける。この境遇から抜け出せる」と、軍のリクルーターたちが声をかけて近づく。アメリカの格差社会の底辺で、青年たちは戦場へと押し出されて行く。

**国家予算の半分が軍事費
アメリカ人の百人に一人がホームレス**

アメリカでは、国家予算の約半分が軍事費だ。戦費を除いても、年間予算四千億ドル(約五十兆円)が軍の維持費に使われている。これでは教育・福祉・医療に回るお金などない。アメリカでは、路上生活を送る人たちは三百万人、実に百人に一人がホームレスだ。そして、男性ホームレスの三分の一がいずれかの戦争の帰還兵だ。

**アメリカ社会は、日本の
近未来の姿なのか？**

今の日本を考えると、このアメリカの青年たちに、日本の青年たち・子どもたちの顔がダブって見える。着々と進められる「再編」という名の日米の軍事的一体化、広がるばかりの日本社会の格差のありようを見れば、アメリカの今が、私たちの近未来として近づいてくるように思えるからだ。

私たちに求められているのは、戦争への加担を拒否するアメリカの人々以上の熱意を持つことだとひしひしと感じている。

核戦争に反対する医師の会・愛知

《二〇〇八年度の活動計画》

四月十九日に開いた愛知の反核医師の会総会では、今年度次のように活動を行うことを確認した。関連企画の映画上映会報告は八ページに掲載。

一、反核医師の会総会&映画

「Marines Go Home」上映会

- ・日時：四月十九日(土)
午後二時三十分～五時四十分
- ・会場：協会伏見会議室

- ・映画：Marines Go Home

二十六周年記念の講演会に招く藤本幸久監督の作品で、矢臼別(北海道)、辺野古(沖縄)、メヒャンニ(韓国)の軍事基地の現状と、これに抵抗して闘っている住民の姿とを記録したドキュメンタリー映画。

二、全国反核医師の会二十周年記念出版『平和へのア

クシヨン101+2』の普及

普及

①アシユフオード医師(IPP

NW元会長)と語り合う会

- ・日時：五月二十五日(日)
午後五時～七時
- ・会場：協会伏見会議室

②日本語版『平和へのアクシ

ン101+2』の普及

- ・愛知の医師の会では、出版された二千百冊のうち八十五冊を購入。現在五十六冊を普及した。

三、反核医師の会二十六周年

記念講演会の開催

- ・日時：五月三十一日(土)
午後二時三十分～五時
- ・講演：「戦争する国アメリカで暮らす人々を取材してドキュメンタリー映画の製作現場から」
- ・講師：藤本幸久氏(映画監督)

- ・影山あさ子氏(ジャーナリスト・インタビュアー)
- ・会場：協会伏見会議室

四、第十九回「核戦争に反対

し、核兵器廃絶を求める

医師・医学者のつどい」

に参加する

全国の反核医師の会に結集

しその活動に参加する。今回は、石川県の反核医師の会に

結集する石川県保険医協会・石川県民医連と金沢大学の医

学生等が協力して合同で開催

準備を進めている。第十九回

反核医師・医学者のつどいの

成功のために協力し参加する。

・日時：十一月二十二日

(土)～二十三日(日)

・会場：金沢・石川県立生涯学習センター

五、原爆症認定を求める集団

訴訟の勝利に向けて裁判

を支援する

原爆症認定裁判で得た成果

と、政治的解決をめざして原

告団と弁護団・日本被団協や

全国支援ネット等が進めてき

た粘り強い運動の力に押され

て、二〇〇八年度四月一日か

ら、厚労省は認定基準の部分

修正をせざるを得なくなった。

その修正策が「新しい審査の

方針」として示され、実際に

動き出した。その実施内容は、

被爆者が求めてきた抜本的な

改善の要求にはほど遠いが、

被団協や原告団・弁護団は、

「被爆の実態に見合った認定

制度を実現するために今後も

闘いを続ける決意である」と

述べている。五月からは、次々

と各地裁・高裁の判決が出さ

れる見込みであり、新たな意

思統一のもとに運動の発展が

提起されている。

引き続き、原爆症認定集団

訴訟の勝利と、次なる原爆症

認定基準の抜本の見直しなど

被爆者行政の改善めざして、

被爆者支援ネットに参加して

活動する。

六、国際会議・大会への代表

派遣

広島で八月四日(月)～六

日(水)に開催される二〇〇

八年原水爆禁止世界大会に代

表を派遣する。

七、「非核日本宣言」運動と非

核自治体宣言への取り組み

各界の著名な人たちの共同

で、日本政府に非核三原則の

厳守や核兵器廃絶の呼びかけ

を要求する「非核日本宣言」

運動が進められている。地元

の非核自治体宣言にも目を向

けつつ、非核日本をめざす活

動に参加する。

八、イラクの医療支援

セイブ・イラクチルドレン

名古屋が、イラク・バスラの

医師の研修受け入れをはじめ

医薬品を送るなど活動が続け

ている。引き続きアル・アリ

プロジェクトを通じて医療支

援をサポートする。

九、反核医師ジャーナルの発行

今年度も「反核医師ジャー

ナル」を二回発行する。

十、組織強化

引き続き、「核戦争に反対す

る医師の会・愛知」の組織強

化に取り組む。

IPPNW 元会長 アシュフォード医師語る

平和運動は、未来を信じ 楽しく勇気を持って



アシュフォード医師

核戦争に反対する医師の会・愛知は、今年五月二十五日に、伏見会議室で、IPPNW 元会長のアシュフォード医師（カナダ）と語り合う会を開いた。アシュフォード氏は、「平和へのアクション101+2」に著した世界各地の平和や健康、環境、社会問題など、命を脅かす脅威に対して人々がどのように工夫し知恵をしぼって闘ったか、幾つかのエピソードを紹介。様々な活動を通じて、「未来は信頼できる、行動すれば変化は可能だ」ということを語った。以下、アシュ

フォード氏の、「地球上の戦争はなくせるか」と問題提起した部分を紹介する。

地球上の戦争は

なくせますか？

まず皆さんにお尋ねします。「今五歳の子どもが生きている間に地球上の戦争はなくなると思いますか？」

いろいろなところでお尋ねしていますが、概ね九五%の人が「なくならない」と回答します。今日、私の話を聞いて、「なくならない」と思う人が、多少なりとも減ることを願って、お話しさせていただきます。

一九九一年の湾岸戦争以降の地球上の武力紛争の増減をカナダの学者が調査しています。それによると、一九九一年以降、今日までに、大規模な戦争は九〇%減少しています。また、小規模な武力紛争も四〇%減少しています。

武力紛争が減少している理由は、次のような変化が考えられます。

第一は、国連の役割が強化された。第二は、国際法の機能が

強化された。第三は、市民社会の影響力が強まった。第四は、女性の役割が大きくなった。

対人地雷の禁止で

果たした国連の役割

国連主導の国家建設は六七%も成功している。これらは、良心と理念を持った人々の集まり、市民社会の地道な取り組みによる成果です。

国連の役割に関して、対人地雷禁止の経験をお話します。

一九九三年に五十人位のNGOメンバーから始まった運動です。ご承知のように、地雷は戦争が終わってからも残る残酷な兵器です。

当時、六十カ国で一億六千万個の地雷が埋められていました。一個五ドルから十ドルといった安いものもあります。

地雷禁止の取り組みは、カナダ政府も賛同し、ダイアナ妃がキャンペーンの代表になってくれ、オタワで第一回目の会議が四十カ国の代表が集まって開かれました。草案を作ろうということ、一年後にノルウェーで再度会議が開かれ、禁止条約の

最終案がまとまりました。

アメリカは、自分たちが参加しなければ、会議はできないものと考え、参加をボイコットしました。

しかし、アメリカ抜きで会議がすすめられ、アメリカは仕方なく「最終案を決めるのを四十八時間延ばしてほしい」といい、変更点として、一地域（朝鮮半島）のみ残す、戦争以外の時期は違法だが、戦争中は合法、との条件を示しました。

しかし、各国はアメリカの要求を退け、一九九七年に目の目を見たのです。最初の会議から四年後のことでした。

個人の戦争犯罪裁く

国際刑事裁判所

次に「国際刑事裁判所」がつけられた役割です。過去百年間で国際法における最も重要なステップのひとつだと思います。

国家間の事件を扱う国際司法裁判所とは役割が異なり、各国首脳が戦争犯罪を犯したときに裁くことができます。大量殺戮、戦争犯罪、人道上の罪などを犯した個人を裁く常設の国際機関

で、国内の裁判所が扱おうとしない、あるいは扱えない事件のみを処理する裁判所です。

暗闇を呪うよりも

一本のローソクを

女性の果たしてきた役割は大きいと思います。平和・社会正義活動の七〇%は女性が中心となっています。

例えば、スリランカのNGO非暴力平和隊の一例を紹介します。スリランカではタミル人ゲリラが子どもたちを誘拐し、軍人に育てています。そこに武器を持たない母親がジャングルに入って行って「子どもたちを返して」と訴えます。ユニセフはお茶とビスケットを用意して、和やかに話し合う。その内、ゲリラのリーダーが「お子さんはお返しする」と言って、バス代も添えて返して貰いました。力に対し、力で対抗するとうまくいきません。相手が思いもしない対応をすれば、相手のバランスが崩れるものなのです。「暗闇を呪っているよりも、一本のローソクをととした方がいい」と思います。

被爆者医療の研究會

認定申請の要望には積極的に応えよう



青木克明氏

八月二十三日(土)、核戦争に反対する医師の会・愛知は保険医協会伏見会議室で「被爆者医療と原爆症認定制度を学ぶ研究会」を開催。医師十一人の他に被爆者や被爆者支援ネットのメンバーら三十一人が参加した。原爆症認定を求める全国の集

被爆者数

(2007年度末)

区 分	人 数	構 成 比
1号/直接被爆	150,133人	61.6%
2号/入市 (2週間以内)	61,203人	25.2%
3号/救護等	24,928人	10.2%
4号/1、2、3号の胎児	7,428人	3.0%
合計 243,692人 ※前年度より8,142人減少		

諸手当受給状況

(2007年度末)

	月支給額	受給者数	割 合
医療特別手当	137,430円	2,184人	0.9%
特別手当	50,750円	1,073人	0.4%
小頭症手当	47,300円	22人	0.0%
健康管理手当	33,800円	213,209人	87.5%
保健手当	16,950円	7,749人	3.2%
合 計		224,237人	92.0%

団訴訟で、従来の国の認定方針が被爆の実態と被爆者の実状を反映していないとしてこれまで判決のあった九地裁すべてで断罪された。今回の研究会は、裁判の成果として厚労省が一部認定方針を変更せざるをえなくなったことにより、四月から新基準に切り替えられたため認定される人が一気に増えており、今後、さらに申請する被爆者が増える

ことを見越して医師向けに開いたもの。

原爆症認定申請のポイント

広島で長年、被爆者の治療に携わり被爆者医療に力を尽くしてきた青木克明氏(広島医療生協副理事長)は、被爆者の医療制度の仕組みと原爆症認定申請についてパワーポイントを使って次のような講義を行った。

全国で被爆者手帳を持っている被爆者は二十四万四千八人弱。手帳の区分の内訳は右上表のとおり。各手当の受給状況は中表、四月から適用されている新基準は下表のとおりである。

このうち原爆症と認められて



積極的に認定する範囲 【4月からの新基準】

- ①爆心地から3.5km以内の直爆
- ②100時間以内に爆心2km以内に入市
- ③100時間経過後、2週間以内に爆心より2km以内に1週間程度滞在したもの。

放射線起因性が推認される以下の疾患を積極的に認定する。

- ①悪性新生物
- ②白血病
- ③副甲状腺機能亢進症
- ④放射線白内障(老人性を除く)
- ⑤放射線起因性が認められる心筋梗塞

する肝疾患や甲状腺疾患等を加えるなど、新基準を抜本的に改善することが必要だ。

また青木氏は、主治医意見書を書く際、申請する被爆者が認定されやすい書類を作るのは医師の大事な役割だとして、意見を書くときの留意点・記載方法のコツなど、自身が実際に作成した具体的な記載例をあげて説明した。

裁判の争点は遠距離・内部被曝

物理学者で、被爆の実相を科学的に立証するため専門家の立場から裁判支援の研究活動をしている沢田昭二(名古屋大学教授)は、直爆の初期放射線だけで被曝線量を推定し原爆症認定を却下してきた国の誤りを指摘。今まで国が無視して来た内部被曝、原子雲と共に遠方に飛び散った放射性降下物による遠距離での被曝を正當に評価すべきだと述べ、被爆直後に現れた下痢や出血、脱毛など被爆者の症状から検討する必要を説いた。

最後に、樽井直樹弁護士が裁判の現状と裁判の判決待ちでなく政府に政治的な解決をさせる課題の重要性について述べた。

原水爆禁止二〇〇八年世界大会(広島)

二〇一〇年NPTに向けて 新たな署名を提起

反核医師の会・愛知から堀場英也代表と
中川武夫事務局長が参加

「原水爆禁止二〇〇八年世界大会・広島」が、八月四日から六日まで、広島市で開催された。大会には、これまで最多となる海外から九カ国・二国際機関の政府関係者と、二十五カ国・三国際団体のNGO代表の合計九十四人と国内から七千五百人の参加者があった。特に今回の大会では、二〇一〇年の核不拡散条約(NPT)再検討会議に向けて新しい署名活動を全世界的に開始させるなど、世界各国に広がる連帯と協同を実感し、核兵器のない世界をめざして、一致して取り組むスタートとなる大会となった。

国連初の代表があいさつ

四日に開かれた開会総会では、秋葉忠利広島市長が平和市長会議の成果を報告するとともに「各

兵器から市民を守るには核兵器廃絶しかないというのが真理である」と力強くあいさつ。国連初の代表、事務総長の代理として参加したセルジオ・ドウアルテ国連軍縮問題担当上級代表は「辛抱強く、粘り強い努力を続けよう。核軍縮と不拡散に関する活動は、人間の活動の中の最も崇高な活動の一つであり、この集団的な努力に自分が貢献できることを誇りに思う」とあいさつ。会場から大きな拍手が起こった。

大会二日目の五日には、「核兵器のない世界へ―草の根の世論をいかにつくるか」「原爆症認定訴訟、被爆者援護連帯」「地球温暖化と核兵器廃絶」「岩国・呉基地調査行動」などをはじめとするテーマで十九の分科会やフォーラムが開かれ、参加者による多

くの発言と交流、学習が行われた。

核廃絶と格差・貧困の たたかいを議論

分科会「核兵器廃絶と軍事費削減、格差・貧困とのたたかい」

では、アメリカの核戦略に組み込まれた日本での軍事費のムダや利権の実態を明らかにし、各地での格差・貧困とのたたかいを交流する中で、核兵器廃絶と軍事費削減が飢餓・貧困問題の解決のカギとなっていることを深めた。

各地から、在日米軍基地の再編強化、自衛隊の市街地での訓練強化や市民行事への参加、派遣・請負など非正規雇用、国・地方での徴税強化などの実態や運動が報告された。「原油価格の高騰で農漁業や運輸、クリーニング業界などが大打撃を受けている。自衛隊がインド洋で給油活動が続けているが、その油を暮らしや営業に回してほしい」「在日米軍への『思いやり予算』は法的な根拠のない支出。医療・福祉など貧困対策、格差は正に回せ」などの発言が象徴的だった。

被爆の実相を肌で感じる 「原爆碑めぐり」

動く分科会「原爆碑めぐり」

では、広島市の町に出て、被爆者の方を語り部に「あの日のヒロシマ」を訪ねた。午前中は、平和記念公園を中心に碑めぐりを行った。最も印象的だったのは、広い平和公園の敷地内で、唯一被爆当時の姿をそのままとどめている慈仙寺跡の墓石である。

ていた。

午後からは、バスに乗り比治山や旧逋信病院、広島城をめぐる。逋信病院には、今も被爆当時の外科病棟がそのまま残っている。資料室には、被爆当時の写真も掲示され、被爆によって窓ガラスが全て割れる中、懸命に治療が続けている様子を伝えていた。

六日には広島市主催の平和記念式典が営まれた。秋葉市長は



「平和宣言」で日本政府に対し、核兵器廃絶に向けて主導的な役割を果たすことを求め、原爆症認定に当たっては、高齢化した被爆者の実態に即した温かい援護策の充実を要請した。福田首相は「非核三原則を堅持し、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向けて国際社会の先頭に立つことを誓う」とあいさつ。唯一の被爆国の首相として、その誓いを期限を切って実行することが求められる。

「核兵器のない世界を」

新署名を提起

閉会総会では、新しいアピール署名「核兵器のない世界を」に取り組むことを確認し、参加者が第一署名者となり、全世界的な共同行動キャンペーンをスタートさせた。

二〇〇〇年五月の核不拡散条約(NPT)再検討会議で、五つの核保有国は自国の核兵器の完全廃絶を明確な約束として受け入れたが、アメリカなどの妨害により実行されていない。新署名は、二〇一〇年のNPT再検討会議に向けて、核保有国が約束を実行す

ることを求め、すべての国の政府がすみやかに核兵器禁止・廃絶条約の交渉を開始し、締結すること呼びかけている。

核兵器廃絶への流れが世界各国に広がっている。大多数の国が核不拡散条約に加わり、非核兵器国として核兵器の開発・保有を放棄している。非核地帯は全地球に広がっている。核保有国の中でも、キツシンジャー元米国国務長官ら元政府高官が「核兵器のない世界」を呼びかけるなど、核兵器にしがみつく勢力は極めて少数派になっている。

原爆投下から六十三年が経ち、被爆者の平均年齢は七十六歳を超えている。被爆者の話を直接聞くことができる時間が長く残されているわけではない。もっと多くの人が事実を知り、核廃絶のために努力と知恵を出すことがいまま求められている。そして、その努力と知恵は二〇一〇年のNPT再検討会議が開かれるまでの二十カ月間に特に多く注がれるべきであることを参加者で確認しあった大会となった。

反核医師の会・愛知 総会と映画“Marines Go Home” の上映会開く

核戦争に反対する医師の会は四月十九日(土)午後、保険医協会伏見会議室で二〇〇八年度の総会とドキュメンタリー映画“Marines Go Home”の上映会を行い二十五人が参加した。

九条改悪の動きにもブレーキ の役割果たす反核運動

総会では、医師の会の最も大きな企画である二十六周年記念講演会の成功に向けた準備を検討し、地道に核兵器をなくし平和を守る活動が続けることの意義を確認。それが九条改悪への流れにもブレーキの役目を果たすことを話し合った(活動計画は四ページ)。

米海兵隊は矢白別・メヒヤンニ・辺野古から出て行け

総会後に、藤本監督が三年前に製作した“Marines Go

Home”(一三〇分)を観た。矢白別(北海道・メヒヤンニ(韓国・辺野古(沖縄)の人々が、土地取り上げや実弾の射爆・投下演習による自然と健康の破壊など米軍の基地被害に苦しみ、メヒヤンニの住民が射爆基地閉鎖を勝ち取る姿を描いている。

● 会費納入のお願い ●

二〇〇八年度の会費納入をお願いいたします。郵便振込用紙をご利用いただくか、次の銀行口座あてにお振り込みください。

三菱東京UFJ銀行・八事支店(普)108-297
「核戦争に反対する医師の会」

※ご不明な点などございましたらお手数ですが、ご連絡ください。(☎ 052-832-1345)

第19回 核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める 医師・医学者のつどい in 金沢

今年は初の石川県での開催です。参加をご希望の先生は「反核医師の会・愛知」までご連絡ください。

- と き 11月22日(土)～23日(日)
- と ころ 石川県立生涯学習センター(金沢市広坂2-1-1)
- メインテーマ「北陸から発信する I CAN なくしまし核兵器」
- 主 催 核戦争に反対する医師の会、第19回「つどい」実行委員会